

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 113号

2014/10/06 発行
株式会社 立花商店

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き： エボラによる供給懸念解消・コートジボワール供給量増加から両市場大幅下落

① 最高：3月 LDN 市場 £ 2,075(9/29)/12月 NY 市場 \$3,311 (9/29) 先週比 **LDN -£ 65/NY -\$60**
② 最低：3月 LDN 市場 £ 1,969(10/2)/12月 NY 市場 \$3,056 (10/3) 先週比 **LDN -£ 103/NY -\$241**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 38 (傾向↓) / NY 市場 \$181 (傾向↓)
週内建玉推移：LDN市場 258,146枚 (9/25 終了時) ⇒253,793枚 (10/3 終了時) **-4353枚**
NY市場 209,687枚 (9/25 終了時) ⇒207,744枚 (10/3 終了時) **-1,943枚**

【9月29日(月)】ニューヨーク、横ばい＝ロンドン小幅続落

ニューヨーク相場は横ばい。12月きりは変わらずの**3311ドル**で引けた。これまで相場の支援材料となってきたコートジボワールのエボラ出血熱拡大に対する懸念が、現実的に妥当かどうかをめぐり、様子見姿勢が広がった。ロンドン市場の3月きりは小幅続落、1ポンド安の**2075ポンド**で終了した。

【9月30日(火)】両市場とも下落＝NY7～9月期は5%上昇

ニューヨーク市場は下落。12月きりは11ドル(0.3%)安の3300ドルで引けた。先週、3399ドルと3年半ぶり高値を付けた後は投機筋の買いの勢いが弱まっている。

エボラ出血熱が最大産地のコートジボワールに飛び火するとの懸念を背景に、7～9月期は5%近く上昇した。6四半期連続の上昇で、これは1975～77年に8期連続で上昇して以来の長さ。ロンドン市場の3月きりは3ポンド(0.1%)安の2072ポンドで引けた。

【10月1日(水)】両市場とも大幅続落＝NYは2週間ぶり安値

ニューヨーク・ココア先物は大幅続落し、2週間ぶりの安値となった。輸出関連統計が弱かったことやコートジボワールの価格政策に関するニュース、エボラ出血熱が最大産地のコートジボワールには飛び火しないとの思惑などが背景。12月きりは128ドル安の3172ドルで終了した。

コートジボワール政府は、2014～15年度のカカオ最低保証価格を前年度から13%引き上げ1キロ＝850CFAフランにすると発表した。T&Kフューチャーズ・アンド・オプションズ（フロリダ州セントルーシー）のマイケル・スミス社長は「供給が増加するのは確実だ。相場は大幅に下落している」と述べた。ロンドン・ココア先物も大幅続落し、3月きりは74ポンド（3.6%）安の1998ポンドで引けた。

【10月2日(木)】両市場とも続落

ニューヨーク市場は続落。12月きりは4日続落し、82ドル（2.6%）安の3090ドルで引けた。ロンドン市場も続落。3月きりは29ポンド（1.5%）安の1969ポンドで取引を終えた。

【10月3日(金)】ニューヨークは4日続落＝ロンドン小反発

ニューヨーク市場のココア先物は4日続落。12月きりは、34ドル（1.1%）安の3056ドルで引けた。ロンドン市場の3月きりは小反発し、3ポンド（0.15%）高の1972ポンドで引けた。

2、インドネシア：ランブン州の9月のカカオ豆輸出高、89%下落(10/1)

インドネシアのスマトラ島のランブン州で収穫されたカカオ豆の輸出高は、昨年比で89%減少し355.6トンとなった。

昨年の9月は3249.29トンのカカオ豆が国外へ輸出されたが、今年9月の大幅減少についてはその要因は明らかにされていない。

インドネシアカカオ協会(ASKINDO)によると、インドネシア全体でみたときの生産量は9%上昇し50万トンとなる見込みである。インドネシア国内にカカオ豆の圧砕業者の進出が拡大し、カカオ豆に対する国内需要が高まりつつある。その結果、生産量に対する輸出量はあまり大きくはないが、2014年にはわずかに上昇し15万トンが輸出される見込みである。

(ランブン州)



スラウェシ島：
インドネシア最大の
カカオ産地

(2013/14 期 ランプン州のカカオ豆輸出量)

2014 年	数量(トン)	前年同月比(%)
9 月	355.60	-89
8 月	0.00	-100
7 月	203.20	-94
6 月	0.00	-100
5 月	810.88	-78
4 月	1191.00	-47
3 月	0.00	-100
2 月	1269.69	400
1 月	812.80	33
合計	4643.17	

2013 年	数量(トン)	前年同月比(%)
12 月	2055.06	-100
11 月	2335.69	84
10 月	2486.48	-45
9 月	3249.29	357
8 月	1295.47	132
7 月	3300.64	4
6 月	5791.20	551
5 月	3606.80	42
4 月	2235.00	193
3 月	660.40	-49
2 月	254.00	-63
1 月	609.60	-76
合計	27879.63	47.5

ランブン州で収穫されたカカオ豆はスマトラ島の Panjang 港へ集められ、出荷される。

ランブン州はインドネシアの中ではマイナーなカカオ産地であるが、カカオ豆は非常によく発酵されており、品質が高いことで知られている。

ちなみにインドネシアにおける主要なカカオ豆産地はスラウェシ島である。(地図参照)

3、インドネシア：東スラウェシ島、カカオ産業の成長を期待(9/29)

東スラウェシ島ではカカオ産業改革に対して 5000 億ルピア (約 4150 万ドル) の投資援助を求め、支援者を募っている。

東スラウェシの農業団体の生産管理部門の長である Waris 氏は、改革によって東スラウェシ島はインドネシア最大のカカオ産地へとなるだろうと述べた。

また彼は「我々の計算によると、同地区は 5000 億ルピアの投資が必要となるだろう。これによりカカオ産業がより向上し、同地区の経済を支える主要産業となるだろう。5000 億ルピアは肥料や、発酵設備や最新の農業機械に充てられる。」と述べた。

4、コートジ：カカオ豆の着荷量、174 万 842 トンを記録=2013/14 期(10/1)

コートジ政府の発表によると、同国の 2013/14 期のカカオ豆の生産量は、2012/13 期の 144 万 514 トンから約 20%上昇し 174 万 842 トンを記録した。

政府のスポークスマンである Kone 氏は「今期の上昇は 20%となった。2011 年に始まったカカオ産業改革を経て、今では農家の所得は 30%も増えた。」と述べた。

2013/14期はコートジvoireにおいて過去最高となったが、それに次ぐ記録としては2010/11期の150万トンがある。

またコートジvoireは、80もの企業や組織に対し、2014/15期クロップの買い付けを認めている。

80社にはカーギル、バリーカレボー、ADMなど大手に加え、フランスやオランダ、シンガポールなどの商社も含まれている。

5、ドミニカ共和国：カカオ豆の輸出量増加(10/1)

ドミニカ共和国の農業省のEstevez氏によると、同国のカカオ豆はカカオ豆の国際市場に対して約6万9000トンが輸出されており、その対価として農民は2億1400万ドルの収入を得たという。

またEstevez氏は「ドミニカでは、カカオ豆を国にとって重要な作物としてとらえ、他の農作物からカカオへと植え替える政策を行ってきた。その結果として、カカオ豆の輸出量増加の効果が始まり、歳入が5900万ドルも増加した。」と述べている。

彼が農家への感謝の気持ちを表したメッセージの中で、「この水曜日をカカオデーとして新しい収穫期が始まる。カカオ産業はドミニカにとって外貨獲得の手段として大いに貢献するだろう。

カカオ農家のおかげで、我が国は依然として世界の中でオーガニックカカオの輸出国としてその地位を保っている。ドミニカで収穫されるカカオ豆のうち約40%は高品質なフレーバービーンズである為、世界的に見てもドミニカのカカオ豆は高級品であるという評価を受けている。」と述べた。

6、ナイジェリア：カカオ豆価格が下落＝クロスリバー州(9/30)

ナイジェリアのカカオ協会やトレーダーからの報告によると、ナイジェリア第2位のカカオ産地であるクロスリバー州では、カカオ豆が安値で取引されている。

輸出向けカカオ豆はトン当たり約2.909ドルで取引されており、昨月の2.97ドルから下落した。

関係者の話では、カカオ豆の価格がロンドン市場とニューヨーク市場で下落したことを受けてクロスリバー州産のカカオ豆の価格も下落したという。同州では、国際市場でのカカオ豆価格の動きに連動して取引価格が上下している。

クロスリバー州の州都であるカラバー地区のトレーダーは「ここ最近では天候条件も悪化しており世界的にカカオ豆相場が高騰している。にもかかわらず、クロスリバー州ではその恩恵を受けられず高値で取引ができていない。その原因はクロスリバー州の不安定な天候にある。雨がたくさん降るのに関わらず、太陽がほとんど照っていない。このせいでカカオ豆が適切に乾燥されず品質が悪くなり価格下落を引き起こしている。」と述べた。

クロスリバー州はオンド州に次ぐ、ナイジェリア第2位のカカオ豆産地であり、年間約6万トンのカカオ豆を生産している。

関係者によると「クロスリバー州の雨季は来月 11 月には終わり、その後 4 月まではカカオ豆の乾燥条件に良いとされる乾季が続く。この乾季の間に収穫されるカカオ豆は適切に乾燥工程を経るので、高値を付けると期待されている。ナイジェリアでは「Graded Cocoa」として政府によって輸出適合品と認定を受けたものが輸出されている。

今週のカカオニュース作成担当：坂元 麻美

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp